

カスガマイシン液剤 カスミン液剤	取扱メーカー： 北興 原体メーカー： 北興
成分： カスガマイシンー塩酸塩〔抗生物質〕……………2.3% （カスガマイシンとして……………2.0%） その他 PRTR 該当成分： ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル（PRTR・1種）…5.0%	性状： 濃緑色液体 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】 ……………

- 植物への浸透移行性が優れている。
- 作用機作は蛋白合成阻害と考えられる。
- 稲のいもち病に対して治療効果が期待できる。
- 胞子形成阻止作用は小さいが、菌糸伸展阻止効果が大きい。
- 細菌性病害についても効果を示す。
- 過度の連用により耐性菌が出現した例がある。使用を控えると耐性菌は減少し、再び効果を発揮するようになる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】 ……………

〈いもち病〉

- 発病直前から初発時にかけ時期を失しないよう早めに散布する。

〈てんさい褐斑病〉

- 初発生をみたらすぐに散布する。
- 病勢に応じて10日から15日間隔で散布する。

〈キウイフルーツ〉

- 花腐細菌病には、出蕾後～開花期までが散布適期であるので、時期を失しないよう散布する。
- かいよう病の樹幹注入に対しては次の事項に従う。

- 本法による防除を初めて実施する場合は、必ず病害虫防除所など関係機関の指導を受ける。
- 主幹が棚下で分岐している樹では効果が不安定であり、また、激しい葉害を生じるので使用はさける。なお、1本仕立ての主幹の樹であっても葉害を生じる場合があるので留意する。
- 主幹の途中から分岐している小枝は夏季せん定時に切除しておく。

- 使用量は棚上の樹冠面積10m²に対し3ℓの注入量を基本に樹冠面積が10m²増すごとに1ℓの割合で注入量を増加する。

○処理方法

- ・主幹の地際から高さ10～30cm程度の部位に、ドリルを用いて直径5mmの注入孔を水平にあける。孔は幹の中心部を貫通させ、深さはなるべく反対側の皮層部の際までとする。
- ・孔内の木屑をかきだして除き、注入孔の入口をゴム栓で密封する。
- ・本剤の所定量を注入器具セットの薬液容器に入れ、棚面につるし、薬液容器の下部にあるゴム栓に通気針を刺す。
- ・薬液が細管の先端に連結している注射針の先に達したら、細管内の気泡を抜き、幹の注入孔を封じているゴム栓に針を刺し込む。針はゴム栓の下方から上方へ上向きに刺し、細管の針に連結する部分をやや弛ませて気泡が抜けやすくなる。
- ・薬液の注入に要する時間は、通常2ℓ当たり2時間30分前後である。但し、夕方になると急速に薬液を吸入する力が低下するので、早朝から処理を開始し、その日の内に所定量の薬液を吸引させる。
- ・注入が終了したら器具は回収する。
- ・注入孔を密封しているゴム栓は梅雨明け後にはずす。できれば塗布剤を塗りカルスの発達を促して注入孔をふさぐ。
- ・新たな感染などにより再処理が必要な場合には、前年の注入孔をさけ、高さや位置を変える。

【薬効・薬害等の注意】 ……………

- 過度の連用をさけ、作用性の異なる薬剤と輪番で使用する。

●適用外作物（すぎ，れんこん，だいず）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】

●空中散布及び無人ヘリコプター散布の際は，共通注意事項の2. 空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。

●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。

●魚類に影響を及ぼすので，使用時は注意。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カスガマイシンを含む 農薬の総使用回数
稲	いもち病	1000 倍	—	穂揃期まで	2 回 以内	散布	4 回以内 （種子浸漬 は1回以内， 育苗箱への 処理は1回 以内，本田 では2回以 内）
		30 倍	3 ℓ			空中散布	
		8 倍	800 ml			無人ヘリコプター による散布	
	褐条病	1000 倍	—	浸種時～ は種前	1 回	24時間 種子浸漬	4 回以内 （種子浸漬 は1回以内， 育苗箱への 処理は1回 以内，本田 では2回以 内）
稲 （箱育苗）	いもち病 （苗いもち） 幼苗腐敗症 （イネもみ枯細菌病菌） 褐条病 苗立枯細菌病	4～8 倍		覆土前		育苗箱（30×60× 3 cm，使用土壌約 5 ℓ）1 箱当り希 釈液 50 ml をは種 した種もみの上か ら均一に散布する。	
キ ウ イ フルーツ	かいよう病	200 倍		収穫後～ 落葉前まで		樹幹注入	
	花腐細菌病	400 倍		収穫 90 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内 （樹幹注入 は1回以内）
う め	かいよう病	500 倍		収穫 60 日前 まで	2 回 以内		2 回以内
てんさい	褐斑病	400～ 500 倍		収穫 7 日前 まで	5 回 以内		5 回以内